

金沢大学の「スーパースターグローバル人材」育成戦略

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Shibata, Masayoshi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/46524

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



CEES 第2回シンポジウム
大学入試改革と変わる小中高の教育

金沢大学の
「スーパーグローバル人材」
育成戦略

金沢大学教育担当理事・副学長

柴田 正良

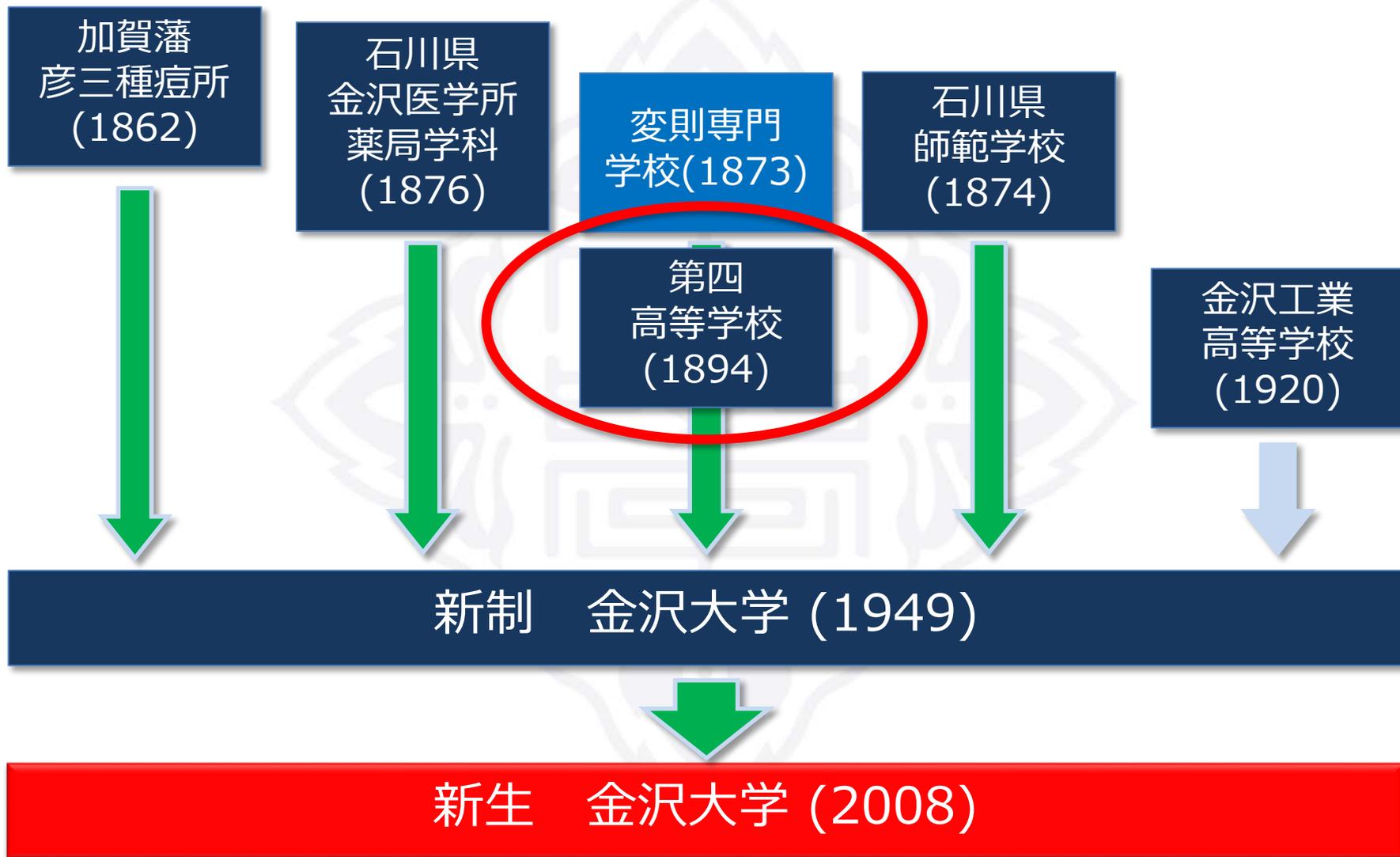
Nov. 26, 2016

話の流れ

金沢大学の紹介

1. **KUGS**と共通教育改革
2. SGUと教育の国際化
3. 入試制度改革に向けて

KUGSとは、本学独自の人材育成方針「金沢大学〈グローバル〉スタンダード」のこと



人間社会学域

- ・ 人文学類
- ・ 法学類
- ・ 経済学類
- ・ 学校教育学類
- ・ 地域創造学類
- ・ 国際学類

理工学域

- ・ 数物科学類
- ・ 物質化学類
- ・ 機械工学類
- ・ 電子情報学類
- ・ 環境デザイン学類
- ・ 自然システム学類

医薬保健学域

- ・ 医学類（6年制）
- ・ 薬学類（6年制）
- ・ 創薬科学類
- ・ 保健学類

教育の出発点（3つの「ない」がある）

いまでも、ここが解決していない

1. 学生は勉強しない。
2. 先生は中身の濃い授業をしない。
3. 教学マネジメントがない。

平成24年度中教審答申

金沢大学は、現在、3つの圧力に晒されている

1. SGUの採択
2. 重点支援：第3類型の選択
3. 入試制度改革（高大接続システム改革）

すべてを、ここから始める(KUGS)

本学は、平成26年度に、独自のグローバル人材育成スタンダード「KUGS」を策定し、これによって、共通教育、学士課程、大学院課程の教育のすべてを貫く教育改革に着手した。

KUGSは、お題目ではない。

共通教育改革においては、**従来の無秩序な属人的科目設定(約300科目)**に代え、KUGSの5つの項目から基本となる30科目(GS科目)を導き出し、それを教養教育の根幹に据えた。

金沢大学憲章で掲げる教育目標

**専門知識と課題探求能力、
さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材の育成**

具体化



金沢大学 <グローバル> スタンダード



グローバル化が不可逆的に進行する現在の国際社会において、大学憲章に掲げる基本的な教育目標を実現するために、本学が育成する人材の具体的な姿を提示

各人の立ち位置に課された人類の一員としての自己の使命を国際社会で積極的に果たし、知識基盤社会の中核的なリーダーとなって、常に恐れることなく現場の困難に立ち向かっていける次の能力・体力・人間力を備えた人材を育成する。

1. 自己の立ち位置を知る
2. 自己を知り、自己を鍛える
3. 考え・価値観を表現する
4. 世界とつながる
5. 未来の課題に取り組む



各学類・専攻のDP, CP, APの見直し



金沢大学ブランドの教育の実現

H27年度まで

H28年度から

約300科目の共通教育科目 ⇒ **30のGS科目**に集約

GS科目一覧

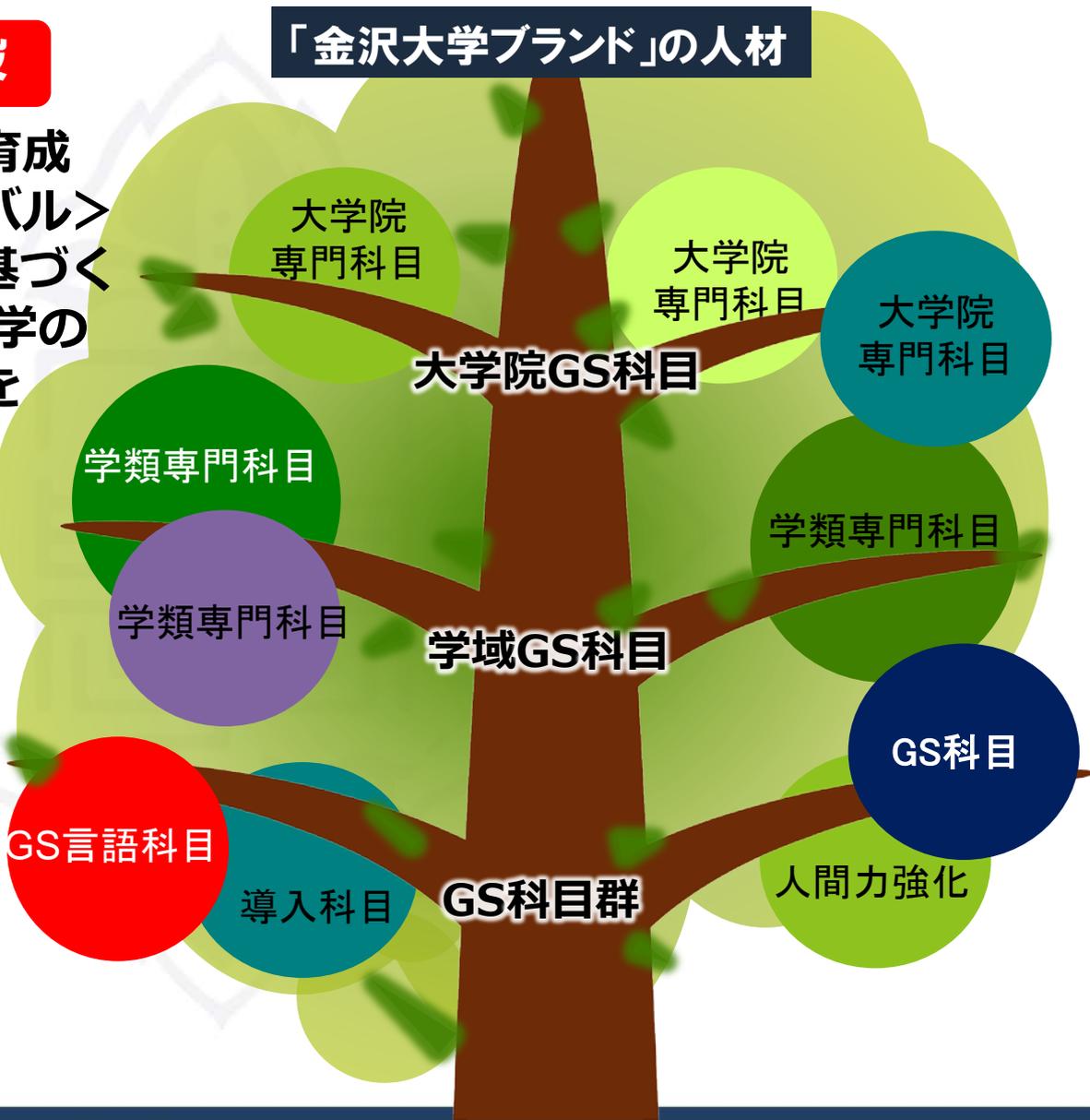
1.自己の立ち位置を知る	2.自己を知り、自己を鍛える	3.考え・価値観を表現する	4.世界とつながる	5.未来の課題に取り組む
現代世界への歴史学的アプローチ	哲学(自我論)	プレゼン・ディベート論 (初学者ゼミⅡ)	金沢・能登と世界の地域文化	科学技術と科学方法論
グローバル時代の政治経済学	パーソナリティ心理学	クリティカル・シンキング	日本史・日本文化	統計学から未来を見る
グローバル時代の社会学	グローバル時代の文学	価値と情動の認知科学	異文化間コミュニケーション	情報の科学
ケーススタディによる応用倫理学	健康科学	論理学から見る世界／数学的発想法	異文化体験	環境学とESD
地球生物圏と人間	細胞・分子生物学	芸術と自己表現	国際社会とボランティア	生活と社会保障
物理の世界／化学の世界	エクササイズ・スポーツ 実技	スポーツ科学	グローバル社会と地域の課題	人権・ジェンダー論

国際基幹教育院の創設

「金沢大学ブランド」人材育成のため、金沢大学<グローバル>スタンダード（KUGS）に基づく基幹教育の推進により、本学の教育全体の高度化と国際化を牽引することを目的として平成28年度に設立された。

基幹教育とは、「学士課程、修士課程及び博士課程それぞれの教育の基盤をなす教養的教育」のこと。

「金沢大学ブランド」の人材





バイリンガル教員の採用

GS科目・学域GS科目の**安定化と標準化**
授業科目**英語化の推進**
学生の**アカデミック英語力の育成**
アクティブ・ラーニング化の**推進**



国際基幹教育院の設置とクォーター制の導入

英語の外部試験の活用

英語力の**可視化**
実践的英語力の**育成**
英語科目の一部を可視化に併せて改編

世界で活躍する
「**金沢大学ブランド**」
人材の**育成**
グローバル化を**牽引**

科目のアクティブ・ラーニング化

自学自習の**推進**
グループによる自学自習体制の**確立**
グループ活動等による**対人能力を育成**

グローバル人材強化プログラム

KUGSに基づく新カリキュラムの構築

異文化体験の推進

英語**コミュニケーション能力の育成**
クォーター制による**海外体験の積極的な推進**
海外体験の単「位化」による**学生の留学を支援**
国内での**地域「超」体験の拡大展開**

GS科目の標準化・英語化

オリジナルテキスト使用による**標準化**
科目内での資料共通化による**標準化**
指標の標準化による**成績の厳格化**
学域GS科目の**試行・検証の着手**



黄字はこれから強化推進を図る項目

世界トップレベルの研究を行う大学や国際化を牽引する大学を重点的に支援する文部科学省の事業。

なぜ必要なのか？

経済社会のグローバル化が進む中、我が国が今後も世界に伍して発展していくには、大学の国際競争力向上と、多様な場でグローバルに活躍できる人材の育成が不可欠。

どんな取り組みを行うのか？

徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し、日本の大学の国際通用性、ひいては国際競争力強化の実現を図る。

日本の大学数

775 校

平成26年5月1日現在
文部科学省HPより

タイプA：トップ型

13 校



タイプB：グローバル化牽引型

金沢大学
採択

24 校



TOP GLOBAL
UNIVERSITY
JAPAN

タイプA：トップ型

世界大学ランキングトップ100を目指す力のある、世界レベルの教育研究を行うトップ大学。

タイプB：グローバル化牽引型

これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国の社会のグローバル化を牽引する大学。

金沢大学の特性を踏まえた特徴ある取組



H28年度から

クォーター制を導入

(開講のイメージ)



共通教育
完全クォーター制

専門教育

- 2学期制の特性を残せる柔軟なクォーター制
- 科目に適した選択を



留年せずに
留学等が可能に！

Summer Program

多様な海外派遣プログラム

多様な海外派遣プログラム

多様な海外派遣プログラム

海外インターンシップ

語学研修

海外インターンシップ (翌年5月まで)



Goals for 2023 数字で見る！金大SGUの目標

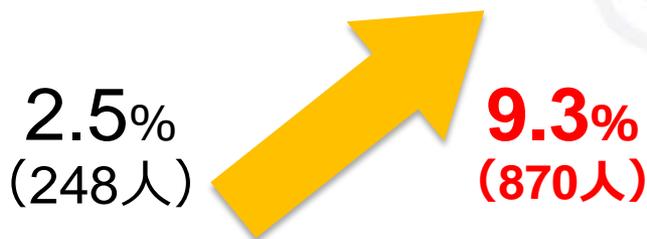
英語による授業

卒業時の学生の語学レベル



日本人学生に占める
留学経験者
(単位取得を伴うもの)

卒業までに留学、ボランティア、
インターンシップ等
海外での学修経験を持つ学生



**10年後
(H35)**

学士課程:50%, 大学院課程:100%

ただし、学士課程の目標値については、全学の平均値です。

- 国家試験等のある学類とそれ以外の学類のそれぞれに可能な方法で英語化を進めます。
- 10年後の目標値です。来年からいきなりこうする、という話ではありません。

英語による授業の定義（本学） 授業時間90分のうち8割以上を英語で実施、なおかつそれが15回（7.5回）の授業期間のうち8割以上のもの

各学域(学士課程)で今後の工程を検討

(A):外国語による授業科目数 (B):全授業科目数

		H25年度実績	H27年度実績	H28年度目標	H29年度以降
人間社会学域	(A)	56	82	103	
	(B)	1,000	1,388	1,482	
	(A/B)%	5.6%	5.9%	7.0%	
理工学域	(A)	5	52	62	
	(B)	632	627	666	
	(A/B)%	0.8%	8.2%	9.3%	
医薬保健学域	(A)	9	25	45	
	(B)	452	474	547	
	(A/B)%	2.0%	5.2%	8.2%	

部局ごとに
目標達成のための
工程表現在検討中

全ての学類・コース(49コース)に「英語による授業」の履修のみで卒業できるプログラムを少なくとも1つ用意

今後の方向性

(1) SGU調書で約束した数値目標を達成することに全力を挙げるが、**数値そのものに過度にこだわって学生の理解をおろそかにしない。**

(2) 「英語化」の実施に際しては、**all or nothingの態度を取らずに、「教材等を少しでも英語で」あるいは「説明を少しでも英語で」行うことによって、「授業の英語化」の裾野をできるだけ広げることが最も大事だと思われる。****全ての教員がこのような意味で「授業の英語化」に参加することが、本学の教育における国際化の第一歩である。**

(3) 本学においては、「掛け値なしに100%英語で行われる授業」が決して理想的なのではない。むしろ、主題領域、学生、学年等に関してきめ細かく配慮された英語化がそれぞれの授業に関して行われるべきであり、その際、**日本語と英語の両方が適切に組み合わせられた「ハイブリッド型」授業**が求められる。

(4) このハイブリッド方式の英語化を様々なレベルで全学的に推し進めること、これが、キャンパス内のいたるところで英語が用いられる環境を自然に創出することを可能にする。その時こそ本学は、日本語と英語を縦横に駆使した多彩な知の織物、2つの言語が織りあげる多様な知のデザイン、すなわち**本学独自のバイリンガル大学(バイリンガル・キャンパス)**となるだろう。

言葉なんかおぼえるんじゃなかった
言葉のない世界
意味が意味にならない世界に生きてたら
どんなによかったか



-----田村隆一『言葉のない世界』(1962)「帰途」から-----

そのように詩人は嘆く。「日本語とほんのすこしの外国語をおぼえたおかげで」、他者と共につくる意味の世界へと帰ってこざるをえないから、というのがその嘆きだ。しかし、詩人のこの溜息は彼の本心ではあるまい。なぜなら、言葉が私たちが否応なく繋ぎとめる世界とは、私たちが沈黙の獣ではなく、人として生きる世界だからだ。

1. 金沢大学の状況
2. 3つの英語
 - 「サバイバルの英語」、「正確な英語」、「深い英語」
3. キャリア・パスを生き抜く
4. 授業とキャンパスの日常
 - (1)授業の中で
 - (2)授業からキャンパスへ

H27年度
スタート

金沢大学スーパーグローバルELPセンター

- ◆ タフツ大学（アメリカ）のEnglish Language Programsと連携
- ◆ タフツ大学から派遣されたネイティブ教員が担当

オフィスアワーに教員と
一対一でフリートーク！
学生ひとりひとりに
きめ細やかな指導



教員も英語での
教授法を学ぶ



↑
TOEFL/IELTS対策
アメリカ大学の授業体験
など
留学を目指す学生向けの
実践的な授業

タフツ大学
(Tufts University)
アメリカ・マサチューセッツ州

- 1852年創立の伝統ある名門大学
- 国際関係の分野で全米トップクラス
- 質の高い英語教育で有名
- 1996年に金沢大学と協定を締結し、学生・教員が交流



国際学類 英語外部試験の提出を受け付ける

H29年度
入試から

H29年度
入試から

外部試験の点数

大学入試センター
「英語」

GTEC-CBT 820～
TOEFL-iBT 45～
IELTSバンド3.0～
(アカデミック・モジュール)

80%から100%の得点
(外部試験のスコアに応じて)

★大学入試センター試験の「英語」の得点と比較して高得点の方を利用。

- ◆ H28年度に受け付けていたTOEICおよび英検は対象外に
 **4技能の重視**
- ◆ 将来的には**他学類でも英語外部試験を活用する**方針

ほぼ全学類で

英語外部試験の提出が OK

H30年度入試

外部試験の種類	導入学類
<p>GTEC-CBT TOEFL-iBT TEAP</p>	<p>人文（前期・後期） 法（推薦） 経済（前期） 学校教育（前期・推薦） 地域創造（前期・後期・推薦）</p>
<p>IELTS（アカデミック・モジュール）</p>	<p>国際（前・後期） 文系一括（後期） 数物科学（後期） 物質化学（後期）</p>
<p>H28年度に受け付けていた TOEICおよび英検は対象外に  4技能の重視</p>	<p>地球社会基盤（仮称）（後期） 理系一括（後期） 薬学（AO） 保健（前期・後期・推薦）</p>

短期・長期を含め、
在学中に必ず1度は海外へ



単位取得を伴う海外留学経験者数



海外拠点の整備

- ・地域ごとの情報収集
- ・教育研究活動の拠点

<北米地域>

タフツ大学(アメリカ)

<ASEAN地域>

モンクット王工科大学トンブリ校
(タイ)

<EU地域>

アントワープ大学(ベルギー)

&

その他地域も開拓中

海外派遣の日常化

教育改革

- ・クォーター制の導入
- ・授業の英語化

プログラム開発の推進

- ・海外派遣プログラムの開発
- ・海外インターンシップの拡充

支援体制の強化

Study Abroad Officeの設置
⇒学生の問合せ窓口の一本化

その他

外国人留学生の受入れ推進

グローバルマインドの醸成

外国人留学生の受入れ数



- ◆ 重点交流校に金沢大学の海外拠点を設置し、情報収集や教育研究の拠点とする。
- ◆ 学生の派遣・受入プログラムを新しく開発し、学生の交流を活発化させる。

タフツ大学（アメリカ）

H26年度～
金沢大学スーパーグローバル
ELPセンターで連携



H27年度～
事務職員の派遣（海外研修）を開始

H28年度（春休み）
新規の学生派遣プログラムを実施予定

アント大学（ベルギー）

H27.5
金沢大学アント事務所
を設置



H29年度（夏休み）
新規の学生派遣プログラムを実施予定

モンクット王工科大学（タイ）

H28年度～
ファーストステップ・プログラム

- 海外経験のない学生向けの学生派遣プログラム（約2週間）
- 夏休みと春休みに実施し、年間約50名を派遣予定



その他地域も開拓中！

教育の国際標準化を目指す

学生教育の厳格な質保証なくして、
海外トップ大学との真の国際交流はない

支援の強化は徹底するが、学生・院生を大人扱いする

- ・AP事業に基づくバックアップ・ポリシーの制定
- ・成績評価を厳格化するための諸方策
- ・成績不良者に対する退学勧告システムの全学的導入, 等

高大接続システム改革会議「最終報告」 をどう考えるか (1/2)

- 今後は、従来の知識量偏重の教育を脱し、「多様な人々と協力しながら主体性を持って人生を切り開いていく力…（中略）…混とんとした状況の中に問題を発見し、答えを生み出し、新たな価値を創造していくための資質や能力」(p. 3)を重視する、という姿勢には賛同したい。
- 高大接続システムが本当に改革されたら、明治以来続いた「官僚養成型」の日本の教育は、大転換をするだろう。
- しかし、現場での困難は、あまりにも大きい。

高大接続システム改革会議「最終報告」 をどう考えるか (2/2)

- 例えば、新たな入試制度を導入、定着させることは、旧来の入試観の根底にある「公平性の幻想」に挑戦することであろう。あるいは、「点数化への過度の信頼」を克服することであろう。
- とりわけ、個別大学に求められている、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の多面的・総合的評価」が、このままで簡単に実行できるとは到底思えない。
- したがって、さらに、本気で日本の教育を根底から変えたいなら、立場の違いを超えて「ヒト、モノ、カネ」を大胆に投入しない限り、失敗するだろう。



- 学域学類制の特色である経過選択制の実質化と強化
- 入学時から分野横断型の興味を強く抱く学生の受け入れ

- 受験生の多様化
- 科学技術の革新を牽引する異分野融合研究へのシフト



- 多くの受験生に対して門戸を広げる
- 異分野融合研究の推進に求められ資質を入学時から育成

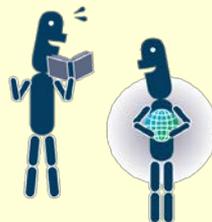
試験概要

【対象】

医学類を含む全ての学類対象

平成30年度入試(後期日程)

文系:60名程度 → 2～3年間をか
理系:70名程度 → けて規模拡大



【試験科目】

	センター試験	個別学力検査等	多面的・総合的評価
文系	3教科3科目 • 外国語 • 国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科から2科目	総合問題	「主体性・多様性・協働性」を調査書や自己推薦書等を点数化して評価する方法を検討中
理系	2教科3科目 • 外国語 • 数学(数学Ⅰ・数学Aと数学Ⅱ・数学B)	物理 もしくは 化学	

高大接続コア部門

学類への移行時期:1年終了時(2年次から学類に所属)

進路選択支援の充実

- 円滑な進路選択のための仕組み
- 学類選択に関するきめ細やかな個別アドバイス
- 多くの研究分野に触れさせ、学修動機を強化
- 経過選択に必要なコンテンツの開発・利用
- 多様なキャリアモデルを提示し、多様な進路への理解促進

学生への適切なアドバイス

- Late Specializationを支援するアカデミックアドバイザーの配置

入学後の初年次教育の整備

- リメディアル教育の充実
- 志望学類APに沿うリメディアル教育の充実
- 学力担保のための自学自習環境を整備(KUGS-スタディ・ラボ*の充実)

俯瞰的視野を養うGS科目

- GS科目の履修・勉学指導と詳細な成績評価

基礎科目の体系的な再編

- 志望学類で必要とされる基礎学力の担保

*KUGS-スタディ・ラボ:学修支援専門スタッフを配置したラーニングコモンズ



KUGSに基づいた国内外で活躍できる次世代リーダー等の育成

世界で活躍できるグローバルリーダーの育成を使命とする本学は、次世代グローバルリーダーの素養を持つ候補者を受け入れ、その能力をさらに伸ばす義務を負う

しかし



- 従来の入試では、高校教育での先進的取り組みで培われた生徒の能力（特に主体性・多様性・協働性）を評価した選抜が困難
- アクティブ・ラーニングやグループワークを通じて、生徒の能力をさらに伸ばしながら評価する入試が求められる

高大連携をさらに進化させ、じっくりと時間をかけて生徒の能力を見極め、グローバルマインドを備えた、本学のAPにかなう人材を広く全国から求める入試制度の構築

高大接続プログラム I の開発

- KUGS入門セミナー春・夏・冬
 - ・8月をメインに年3回実施
 - ・全国の高校生を対象



- KUGSに関連した講義、実習、実験等を実施（アクティブ・ラーニング・グループワーク、英語の講義も含む）
- 高大接続ポータルシステムの開発

【入試スケジュール】

- 9月 KUGS特別セミナー
 - ・KUGS特別入試希望者のみを対象
- 10月 1次選考（書類選考）、選考結果通知
 - ・出願書類：調査書、活動などの証明書、特別セミナーのレポート等
- 11月 2次選考（講義や実験の実施後、口述試験等）
- 1月 最終選考
 - （大学入学希望者学力評価テスト（仮称）で一定レベル以上を選考対象とする）
- 2月 合格発表



「KUGS特別セミナー」

超然特別入試 (1/2)

特異な才能を備えた多様な学生を受け入れる仕組みを構築

グローバル化が加速する中、画一的な環境ではなく多種多様な学生がともに学ぶ環境を構築し、特異な才能を活かしてエキスパートとして活躍できる人材を育成

尖った人材を国内外から広く受け入れる仕組みと、入学前後のフォローアップ体制の構築が必要

高大接続プログラムⅡの開発

- ・超然コンテストフォーラム(8月開催)
 - ・創造的制作、コンテスト応募のため
- ・超然コンテスト(9月実施)
 - ・高校3年生・既卒者対象(2年生は飛び級)
 - ・対象者は全国の高校生



金沢大学独自のコンテストを通じた高大接続
コンテスト案

- ・金沢大学文学賞
- ・A-Lympiad(国際的数学競技大会)
金沢大学附属高校が日本での幹事校として実施

その他、ロボコン、プログラミングコンテスト、英語プレゼンコンテストなどについても今後検討する。

【応募書類】

出願書類: 調査書、活動などの証明書

9月 超然コンテスト

・超然特別入試希望者のみを対象

10月 コンテスト結果と提出書類による選考

12月 合格発表

(将来は最終選考として高等学校基礎学力テスト(仮称)で一定レベル以上を選考対象とし2月に合格発表)

コンテストの上位受賞者で本学の入学希望者に対してフォローアップを実施

特異な才能を見出す
入学者選抜方法の調査と開発

- ・大学主催コンテスト等の検討
- ・高等学校までの様々な活動や経験等を評価する方法の検討

特異な才能を見出す入試を
支援するシステムの開発

- ・高大接続プログラムⅠ・Ⅱ支援のためのポータルシステムの開発
- ・コンテストに入賞した生徒それぞれにe-ポートフォリオを作成

基礎学力担保のための取り組み

- ・GS科目による「主体性・多様性・協働性」の一層の涵養
- ・学生に適した基礎科目の履修指導
- ・リメディアル教育の充実

金沢大学独自のコンテスト案(例示)

泉鏡花

ヒルベルト



特異な才能を見出す入試を実施

徳田秋声

ガウス

金沢大学文学賞

A-Lympiad (国際的数学競技大会)

近代文学濫觴の地・金沢。本学は前身校以来その育成の一翼を担ってきた。この伝統を踏まえ、新しい才能をこの地で育むため、幅広い分野、多様な審査員により多面的に評価し、文学的才能をもつ高校生を見出すとともに、きめ細かい指導を行う。

現実の世界的問題に、オープンエンドで取り組ませることで、高次元での「問題解決」や「モデル化」といった能力を発揮させ、数学的な才能をもつ高校生を見出す。

本大会は、オランダ、デンマーク、ドイツ等で10年以上の実績をもつものであるが、近く金沢大学附属高校が日本での幹事校となることを期に、金沢大学と連携して実施する。

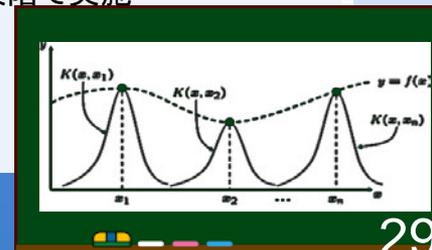
募集分野例)「創作」:小説・韻文等
「評論」:社会問題等
「英文エッセイ」

応募資格例)全国の2年生以上の高校生

審査員例)金沢大学出身で高校生に知名度の高い作家(特別審査員)
金沢大学教職員, 大学院生

・競技方式例)チーム戦(1チーム3~4名)
課題に対するレポートで評価
予選・本選の2段階で実施

・応募資格例)全国の高校生
・審査員例)外部の有識者
全国の高校教員
金沢大学教職員



高大接続プログラム I の開発

高大接続プログラム I

- ◆ 資質のある生徒の能力をさらに伸ばすとともに、研究を土台とした活動を通して主体性、リーダーシップ、協働性を育成
- ◆ 金沢大学で学ぶということを経験し、金沢大学が求める人材像の理解促進

- 金沢大学の教員による特別プログラム
- 高校で学修するレベルよりも高い講義・実習・実験等を通じて、論理的思考力を涵養
- 文系・理系の枠組みに捕われず、物事を多面的に捉え、多角的な課題解決のアプローチを通じて、科学の面白さを実感
- グループワーク等を多様することで、リーダーシップや協調性、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力も育成

これまでの取り組み

- 理学の広場
石川県教育委員会との共催
- ふれてサイエンス
• てくてく・テクノロジー

取組概要

- KUGS入門セミナー春・夏・冬
・8月をメインに年3回

- 高大接続ポータルシステムの開発と活用

- KUGSに関連した講義、実習、実験等の実施(英語の講義も含む)

Frontier Young Academy of KU

Introduction

- 著名研究者による講義
- 科学するとは?

Scientific Research-BASIC

- 講義・実験を有機的に連動したモジュール方式の研究プログラムを提供

Scientific Research-Advanced

- コア領域とその周辺領域からなる学際的研究を研究室で実施



国際基幹教育院

理工研究域

医薬保健研究域

人間社会研究域

国際文化資源学研究中心

新学術創成研究機構

がん進展制御研究所



環日本海域環境研究センター



グローバルサイエンスキャンパス(GSC)事業

対象

- 全国の高校生(1,2年生)を対象
- 金沢大学の教育研究に興味のある生徒
- 科学に興味のある生徒
- 早期に大学レベル教育の修得を希望する生徒

KUGS特別入試による受験希望者(高校3年生)

KUGS特別セミナー

KUGS特別入試

期待される成果

- 金沢大学のAPを実体験させることで、理解を促すことができる
- 科学の学習から科学を探究する学修へ早くから移行させ、主体的学修を涵養できる
- 各分野で優れた才能を有する生徒を早期に発掘・育成することで、社会に貢献できる
- 新テストを活用した高大接続モデルに繋がる

大学改革は、大学のみにてならず (少し生意気な言い方ですが…)

戦後日本の価値観を大枠において継承し、さらに個と国がともに健全な発展を遂げるためには、「百年の大計」としての教育が必要である。

それには、初等教育から中等教育、さらには高等教育までの一貫した理念の共有と、小・中・高・大にわたる協奏的・共創的な接続の仕組みが不可欠である。

内向きになった日本の若者を地方発、日本発の「世界で輝くグローバル・リーダー」とするために、子ども時代から、高い志を鍛えるような教育を実現すべきである。

鉄は熱いうちに打て！

ご清聴ありがとうございました

- ◆金沢大学Webサイト

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

- ◆金沢大学スーパーグローバル大学創成支援事業(SGU) Webサイト

<http://sgu.adm.kanazawa-u.ac.jp/>

- ◆金沢大学グローバルサイエンスキャンパス (GSC) Webサイト

<https://gsc.w3.kanazawa-u.ac.jp/>